

【施設状況】

グループ名称	篠ノ井こども広場(このゆびとまれ)							
指定管理者名	労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団					法人番号	3013305000743	
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副				
構成施設	1503	篠ノ井こども広場(このゆびとまれ)						
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01 代行制
施設概要	建物延べ床面積:552㎡ プレイルーム、飲食ルーム、おひるね室、授乳室、活動室、会議室 敷地面積:1129.59㎡							
施設設置目的	乳幼児および幼児とその親の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進に資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。							
基本方針等	指定管理の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。							
主な実施事業	①子育て中の親と子どもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤あそびに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧利用者支援事業 ⑨その他子育て支援に関すること							

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名	労働者協同組合 ワークスコープ・センター事業団			当該指定管理者の 指定回数	4 回	
指定期間	令和5年4月1日	～	令和10年3月31日	5年	当該指定管理者の 管理運営開始日	平成22年4月1日
指定 管理 者の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。					評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)					

3

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	対前年比	評価
	利用者	人	15,340	25,121	25,175	25,188	100%	
	(内出張広場参加者)	人	300	280	299	254	85%	
	新規登録乳幼児数	人	956	1,131	882	838	95%	
	専門家相談件数	件	309	257	408	427	105%	
	子育てコンシェルジュ相談件数	件	1,307	1,170	1,109	945	85%	
(特記事項)								
事業実施内容	区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由			
	市指定事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報の提供 ⑤あそびに関する指導及び助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座、イベントの開催 ⑧利用者支援事業(子育てコンシェルジュ) ⑨その他子育て支援に関すること			・「保活について話そう」子育てコンシェルジュ 年2回 ・「子育てとお仕事 みんなで話す会」就労支援専門員と協働 年1回 ・「パパのおしゃべり会」年3回 ・子育て広場(篠ノ井交流センター)への出張(年12回)			
	自主事業	<講座の開催> ・親子でリトミック・ベビーイングリッシュ・親子ヨガ ・ワークショップ(手作りおもちゃ) <その他> ・育児用品、子どもの衣類、マタニティ用品リユースの常設 ・大型育児用品のリユースイベント・プランター菜園 ・フードドライブ、パンの配布(フードバンク信州より)			<地域での活動> ・夢バザーの実施(10月篠ノ井交流センター)			
サービス維持・向上の取組み (広報等)		・ホームページ、Instagramで情報発信 ・地域回覧板(年2回) ・篠ノ井有線放送による地域への周知活動(月1回) ・南部図書館「赤ちゃんのお話会」にて子育てコンシェルジュによる広報活動(年8回)						

4

3 利用者評価

区分		内容		評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート		4
	(2) 調査、会議等の内容 ・こども広場利用者アンケートの実施(令和7年11月6日～12月6日)回答者数120名 ・子育て広場全国連絡協議会が実施している活動の指標「ガイドライン」より利用者向けアンケートの内容を取り入れた。 ・イベント終了後のアンケートおよび感想の聞き取り。「休日マタニティセミナー」「篠ノ井交流センターの子育て広場」「パパのおしゃべり会」「保活について話す会」など。 ・利用者の声BOXの設置(広場内に投書箱を常設)			
利用者からの評価・苦情等	(3) 調査、会議等の結果 ・利用者アンケートは、意見要望を含めた結果をフロア内に掲示するとともに、ホームページに期間限定で掲載した。 ・イベント終了後のアンケートは、次回開催への参考資料、また利用者の要望等把握する材料とした。 ・講座、イベントの感想は、報告とともにフロア内に掲示を行った。 ・利用者の声BOXへ投書されたものはすべて職員間で共有把握し、返答を掲示した。			
	(1) 良好とする評価 *こども広場利用者アンケート ・利用者満足度(86.7%)・利用にまあ満足(13.3%) ・久しぶりに行って顔と名前を覚えてくれてうれしい。 ・広くて安全な室内で自由に遊ばせることができ、子ども共々歓迎されている雰囲気でもありがたく利用している。 ・子育ての相談にのっていただきとても助かっている。このゆびに遊びに来ることが、とても気持ちよくなっている等。			
	(2) 苦情・改善等の要望事項 ・不満足(0%) ・職員の利用者へ対する要望。・開館時間を早めてほしい要望。 ・兄弟で利用する家庭から、下の子の授乳の際に上の子を見てほしい。 ・おもちゃや遊具のバリエーション、新しい物を増やしてほしい。 ・就園児の子どもが走り回っていると危ないと感じる。 ・利用者の多い時間をずらして利用が出来るよう、ネット上で人数の把握が出来ると良い。			
≪対応措置≫ ・開館時間を早める要望については、令和8年度4月より開館閉館時間を試行的に早めて実施している。 ・職員への要望は、全職員で内容を把握し意識して対応を行うよう確認している。 ・大型の遊具については、12月に「長野ハッピーライオンズクラブ」より寄付をいただき、他のおもちゃについては対応済みである。 ・投書箱への内容は、苦情要望8件全職員把握回答済みである。				

4 事業収支

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和7年度)				市の収支				評価
	年度計画額		収支実績額		令和7年度決算		令和6年度決算(前年度)		
	項目	金額	項目	金額	項目	金額	項目	金額	
指定事業	利用料金		利用料金		歳入	使用料		使用料	
	指定管理料	26,776,000	指定管理料	26,776,000		雑(納付金)		雑(納付金)	
	委託料	321,432	委託料	396,120		行政財産目的外使用料		行政財産目的外使用料	
	販売収入等		販売収入等			貸付料		貸付料	
	その他収入		その他収入	160,000		その他	11,652,000	その他	10,759,000
					利益配分		利益配分		
	収入計	27,097,432	収入計	27,332,120	計	11,652,000	計	10,759,000	
	人件費	17,890,973	人件費	18,762,673	歳出	指定管理料	26,776,000	指定管理料	26,732,000
	設備管理費	380,000	設備管理費	307,328		委託料	396,120	委託料	321,432
	備品購入費	100,000	備品購入費	41,000		需用費		需用費	
	修繕費	150,000	修繕費	63,000		役務費		役務費	
	光熱水費	1,150,000	光熱水費	1,097,080		使用料・賃借料	56,452	使用料・賃借料	57,024
	事業費	2,324,032	事業費	1,750,831		修繕費		修繕費	
	事務経費	55,000	事務経費	27,258		工事請負費	918,500	工事請負費	1,354,100
	本社経費	3,407,729	本社経費	3,428,653		備品購入費		備品購入費	
	その他	1,804,098	その他	1,889,278		その他		その他	
			利益配分						
	支出計	27,261,832	支出計	27,367,101	計	28,147,072	計	28,464,556	
	指定事業損益	-164,400	指定事業損益	-34,981					
利益配分を除く 指定事業損益	-164,400	利益配分を除く 指定事業損益	-34,981						
収入	164,400	収入	97,100						
支出		支出	54,565						
自主事業損益	164,400	自主事業損益	42,535						
損益	0		7,554		差引	-16,495,072		-17,705,556	
人件費比率【人件費(賃金等)／令和7年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)									68.6%
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由				本社経費は、指定管理料以外の収入も含めた総収入額で按分している。実習生の受け入れや自主事業等により総収入額が計画額から変わったため、異なっている。					

5 管理運営全般 ※ すべて ☒ で、「3」、「4」、「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

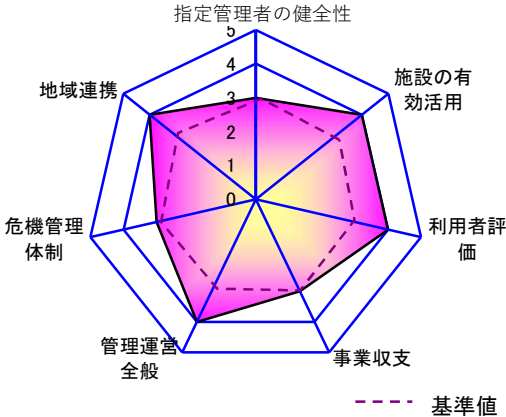
区分	確認内容	チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか	☒	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数) 館長1(1)子育て支援員7(子育てコンシェルジュを含む)(6)事務1(1)清掃2(2)計11人		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか		
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか		
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか		
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか	☒	4
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか		
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか	☒	4
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか		
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に行われたか	☒	4
	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか		
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか	☒	4
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか		

危機管理体制	区分	確認内容	チェック欄	評価
	安全対策	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	☒	3
		2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか		
		3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	☒	
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	☒	
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	☒	
		2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		

7 地域連携

地域連携	評価
地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。	4
協定内容・指定管理者提案 追加された内容、未実施の内容及びその理由 ＊教育機関との連携（職場体験、実習、ボランティア） 川中島中、篠ノ井西中、篠ノ井東中、長野看護専門学校、長野保健医療大学、高崎健康福祉大学、順天堂大学、長野県立大学、清泉大学、県立長野高校、篠ノ井高校、長野日大高校、文化学園長野高校 ＊地域 ・篠ノ井南条区民生児童委員（月2回、赤ちゃん体操とママヨガ）篠ノ井地区一般の方（10月開催のバザーの準備） ・子育てひろば（篠ノ井交流センター） ・しののけ軽トラ市への参加（商工会、篠ノ井駅前商店会との連携） ・堰さらい（南条区の自治会活動への参加）・南条奉賛会による節分豆まき ・自動車リース、施設修繕（篠ノ井地区より）衛生用品の購入（信州新町授産センターより）	

【総合評価】

評価項目			評価	得点	総合評価	
総合評価	指定管理者の健全性	3	6	合計得点		
	施設の有効活用	4	16			
	利用者評価	4	16	72		
	事業収支	3	6			
	管理運営全般	4	8			
	危機管理体制	3	12			
	地域連携	4	8			
	----- 基準値					
評価理由		・「施設の有効性」について、利用者ニーズを踏まえ様々な追加事業を行っていること、乳幼児人口が減る中、利用者数を維持できていることから、「4」とした。 ・「利用者評価」について、非常に高い満足度を得ていること、苦情要望についてすべて回答している点から「4」とした。 ・「管理運営全般」について、高い専門性を有した職員を多く配置し、利用者に寄り添った対応ができていないこと、講座等の担当をローテーションすることで全職員が業務を把握し、安定した事業運営を図ったことから「4」とした。 ・「地域連携」について、非常に多くの団体と連携していること、学生ボランティアも子どもの見守りを依頼する等、地域資源を活用した運営を行っていることから「4」とした。				
取組み・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題	改善状況	改善案等(改善されていない場合)			
	・新規乳幼児登録数を増やし、子育て家庭の孤立防止を図る。 ・保育・幼稚園課及び保育コンシェルジュとの連携を強化し、制度の最新情報を共有することで子育てコンシェルジュ等の専門性を高める。	・乳幼児人口が減少する中、一定の登録者数を維持できた。 ・こども広場会議で情報共有したほか、私立園向け入所説明会に子育てコンシェルジュも参加し、最新の制度情報を共有することで課との連携を図った。				
次年度の目標・取組み等 (施設所管課)	・利用者のニーズを反映させながら、土日祝日の講座やイベントを充実させる。 ・引き続き保育・幼稚園課及び保育コンシェルジュと連携し、子育てコンシェルジュの専門性を高める。また、各専門機関との連携も強化し、適切な支援を行えるようにする。					

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

・親子のふれあいタイムを毎日2回実施した。親子で触れ合う時間を大切にしながら、手遊び、体操、絵本の読み聞かせ、歌や楽器遊びなど、子どもの年齢やその日の様子に合わせた内容を工夫し、利用者の満足度向上に努めた。また、毎月、地域の住民や元利用者によるボランティアの協力を得て、バイオリン演奏、英語遊び、新体操など多彩なプログラムを実施し、親子がさまざまな体験に触れる機会を提供した。

・「保活を話す会」を年2回開催した。近年、保育所入所に関する相談が増加していることから、保護者同士が情報交換や交流を行える場として実施した。参加者からは実践的な情報が得られたとの声が聞かれ、その後、保育コーディネーターによる個別相談会へとつなげることで、具体的な入所支援を行った。

・「パパとのおしゃべり会」を年3回開催した。前年度は育児休業取得者を主な対象としていたが、本年度は対象を育児取得の有無にかかわらず父親全般へ拡大した。父親同士の交流を目的としながら、育児に関する悩みや経験を共有できる機会となった。また、県立大学の学生に子どもの見守りボランティアとして参加してもらうことで、父親が安心して交流できる環境を整えた。子どもたちにとっても学生との関わりは社会性を育む機会となり、将来保育現場への就職を希望する学生にとっても実践的な学びの場となった。

・「子育てとお仕事みんなで話す会」を年1回開催した。利用者の多くが育児休業中の母親であることから、職場復帰後の仕事と子育ての両立に対する不安を軽減することを目的に実施した。就労支援専門員と連携し、参加者同士の交流や情報交換を通じて、復職に向けた不安の解消と意識づくりを支援した。

② 業務の効率化に対する取組み

・業務の円滑な運営と効率化を図るため、総務・経理業務については専任職員を配置している。また、広場業務においては、講座やイベント等の担当を数年ごとに交代する体制をとり、全職員が業務内容を把握できるよう努めている。これにより、職員の急な欠員や休暇取得時にも柔軟な対応が可能となり、安定した事業運営につながっている。

・民生児童委員による講座時の見守りボランティアの協力を得ることで、安全な運営体制を確保しながら講座定員の拡充を図り、より多くの利用者の受け入れを可能とした。

・休日開催のイベントでは、学生ボランティアに子どもの見守りを依頼することで、職員の負担軽減と安全管理の充実を図った。地域資源を活用した運営体制により、利用者が安心して参加できる環境づくりを推進した。

③ その他

・「ママトーク」「ママヨガ」などの母親向け講座において、地元の民生児童委員に月2回参加いただいた。参加者の子どもの見守りだけでなく、母親の話に耳を傾け、寄り添いながら交流を図ることで、安心して参加できる環境づくりと地域に根差した子育て支援を実施した。

・篠ノ井西中学校60周年記念事業「キャリアフェスティバル」に参加した。「こどもまんなか社会」をテーマに、生徒たちとともに子どもを中心とした地域づくりについて考え、意見交換を行うワークショップを実施した。次世代を担う若者に子育て支援や地域活動への理解を深めてもらう機会となった。

・篠ノ井交流センターで実施した地域バザーでは、職員や利用者に加え、回覧板や口コミを通じて地域住民への協力を呼びかけた。その結果、子育て世代から祖父母世代まで幅広い年代の参加があり、多世代交流の機会を創出するとともに、地域全体で子育てを支える意識の醸成につながった。

・「子育てひろば全国連絡協議会」の活動指標ガイドラインに基づき、職員による自己評価および振り返りを実施した。広場運営や支援内容について客観的に見直す機会とし、職員間で課題や成果を共有することで、支援の質の向上と事業運営の改善に努めた。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

・利用者から寄せられる相談内容は、子育てに関する悩みや保育サービスの利用、就労との両立など多岐にわたっている。そのため、支援員には継続的な研修への参加による専門性の向上と、地域の子育て支援サービス等に関する最新かつ正確な情報を提供する能力が求められる。また、利用者一人ひとりの思いに丁寧に耳を傾け、気持ちに寄り添った対応を行うことで、誰もが安心して利用できる居心地の良い環境づくりを継続していく必要がある。

・広場では月齢や発達段階の異なる子どもたちが同じ空間で過ごしているため、限られたスペースの中で安全・安心な利用環境を確保することが重要である。保護者に対して施設利用時のルールや安全確保への理解と協力を求めるとともに、職員による見守りや環境整備を適切に行い、事故防止と円滑な運営に努めていく。

・災害発生時の対応については、職員間で共有し対応が出来るよう体制を整えていく。

・所属している「長野市災害時における災害支援ネットワーク」にて作成した支援ガイドラインを活用するための職員研修が必要である。

・毎年のことではあるが、施設建物、備品等の経年劣化による不具合が発生する。その都度、課と協議の上解決をしていく。

(3) 総合評価

評価基準

【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

・利用者ニーズを踏まえ、父親同士の交流、保育園入所に関する情報交換、母親の仕事と育児の両立支援などをテーマとした講座や交流会を実施した。利用者同士が悩みや情報を共有出来る機会を設けることで、子育てに対する不安の軽減や孤立防止につなげることができた。また、自主事業の講座については、広場内での掲示に加え、ホームページやSNS(Instagram)を活用した継続的な情報発信を行い、事業の周知と利用促進に努めた。

・休日マタニティセミナーでは、子育てコンシェルジュによる子育て支援サービスの紹介を実施した。参加者が広場利用や保育所入所相談につながるなど、支援の入り口としての役割を果たしている。また、南部図書館で開催される「赤ちゃんのおはなし会」や篠ノ井交流センターの子育て広場においても広報活動を行い、欠号の周知と利用促進に努めた。

・地域の回覧板を活用した広報活動を継続して実施した。広場事業全般の案内に加え、子育てコンシェルジュによる相談支援や各種サービスの情報に特化した内容を発行し、地域の子育て家庭への必要な情報を届けるとともに、相談支援の機能の周知を図った。

・年3回の避難訓練(火災、地震、不審者侵入)を実施した。訓練にあたっては、日頃から地元の消防署や警察署と連携し、利用者も参加する実践的な訓練を行った。これにより、職員の危機管理意識と対応力の向上を図るとともに、利用者の防災・防犯意識を高め、安全・安心な施設運営につなげることができた。

・地域と利用者が協働して実施するバザーを2年ぶりに開催した。篠ノ井地区において実施し、広場利用世代に限らず幅広い地域住民が参加できる機会とすることで、世代や立場を超えた交流を促進し、地域全体の活性化につなげた。

・安全管理の取り組みとして「ヒヤリハット」の記録を継続的に実施した。特に頭部に関わる事案について重点的に記録・共有を行うことで、職員間の危険予知意識の向上と事故防止意識の強化を図った。

・施設内外の安全点検については、月1回全職員によるローテーション体制で実施した。不具合や懸念事項については職員間で共有し、早期対応につなげることで、安全で安心な利用環境の維持に努めた。

② 次年度以降の取組み

・篠ノ井地区における子ども食堂や地域のお祭りイベントへの協力を継続するとともに、「親子の居場所」(月1回 篠ノ井地区開催)についても、周知活動や運営サポート等を通じて積極的に関わり、地域における子育て支援ネットワークの強化を図る。

・妊娠期からの利用を促進する取り組み。

・学生ボランティアの受け入れと協力体制の充実を図る。これまでの大学生に加え、近隣に複数の高校が所在する地域特性を生かし、高校生の参加機会も広げることで、世代間交流の促進と地域人材の育成につなげていく。

・親子で楽しめるワークショップや、保護者同士の交流・リフレッシュにつながる企画など、土日開催イベントの内容を充実させ、利用者ニーズに応じた多様なプログラムの提供を進める。

・地域で開催される各種外部イベントへの積極的な参加を通じて、広場事業の周知を図るとともに、地域との連携強化および新規利用者の獲得につなげていく。